

# 日本華僑華人学会の設立

やま    した    きよ    み  
山    下    清    海

はじめに

- I 学会設立の経緯
- II 設立総会の開催
- III 第1回大会の開催
- IV 学会の活動内容  
おわりに

## は じ め に

2003年3月29日は日本における華僑・華人研究にとってきわめて重要な日となった。日本において初めての全国的な華僑・華人研究の学会として日本華僑華人学会の設立総会が開催されたのである。

日本における華僑・華人研究は第2次世界大戦前からかなりの蓄積があり、近年は華僑・華人関係の専門書や啓蒙書の刊行も増えている。そして、華僑・華人に関する諸問題に取り組む若い研究者も年々増加している。しかしながら、これまでは華僑・華人研究の全国的な学会がなかったのである。

本稿では、日本華僑華人学会が設立されるまでの経緯、本学会の活動内容などについて紹介したい。

## I 学会設立の経緯

華僑・華人研究の全国的な学会の設立の重要性については、この分野の研究に従事する研究者なら異論を唱えるものはいないであろう。しかし、研究・教育、さまざまな業務に追われる研究者が多い中で、積極的に全国的な華僑・華人研究の学会設立の運動を始める者はこれまではほとんどみられなかった。

本学会が設立されるに至った経緯については、2002年12月に作成された『『日本・華僑華人研究学会（仮称）』入会のお誘い』という以下に引用する文書が参考になる。

「日本・華僑華人研究学会（仮称）」

入会のお誘い

この度、私たちは「日本・華僑華人研究学会（仮称）」を設立することになりました。つきましては、なるべく多くの方々に参加していただきたく、ぶしつけとは存じますが、入会への案内を配付させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

### 1. 新学会設立準備までの経過

すでに1984年に長崎で長崎華僑研究会が組織され、89年には九州全体を範囲とする九州

華僑華人研究会に拡大、神戸でも1987年に神戸華僑研究会が組織され、92年には神戸華僑華人研究会に発展、横浜でも1995年に横浜華僑華人研究会が組織され、活発な研究活動を行ってきました。そうした日本における活発な華僑華人研究の成果のひとつが、2002年6月に出版された日本最初の『華僑・華人事典』(弘文堂)です(筆者注)。

新しい学会はこうした経緯をふまえて、全国の華僑・華人研究者から出てきた、全国的な学会ができないものだろうかという願いに応えて、一部の有志によって設立が提案され、準備が始められたものです。

## 2. 新学会の目的と事業

新学会は上記各地研究会に取って代わるものではなく、むしろ各地でそれぞれ行われていた研究活動に加えて、全国レベルでの研究交流を図り、それによって日本の華僑・華人研究の発展に貢献するとともに、研究成果を広く世に伝えようとするものです。その結果、研究者個人同士の交流の範囲が広がること、共同研究が生まれる可能性も高まること、研究成果を会員全員、さらには広く社会全体のものとすべく、全国研究大会や各種の研究会、シンポジウムの開催、研究誌(学会誌)や研究書の発行、講演会の開催などを行うこと、内外の関連学会との交流を深めること、海外の研究者・組織との交流を行い、海外の学会に研究者を派遣し、こちらの学会にも海外の研究者に参加してもらうこと等々、多くの事業を行う予定です。

この「入会のお誘い」の文書の最後には発起人として以下に掲げる56人の氏名が掲載されて

いた。

安東みさを 綾部恒雄 陳正雄 陳来幸 陳天璽 藤村是清 濱下武志 原不二夫 原口泉 樋泉克夫 日暮高則 家近亮子 石田浩 伊藤泉美 今富正巳 岩崎育夫 嘉数啓 過放 窪田新一 黒木国泰 許淑真 松本武彦 松本ますみ 三橋秀彦 三平則夫 宮原暁 森田靖郎 王効平 森川眞規雄 中川學 中間和洋 中村哲夫 西村成雄 王維 小木裕文 小熊誠 小倉貞男 凌星光 廖赤陽 劉進慶 坂出祥伸 朱炎 曾纓 曾士才 高橋茂男 高橋晋一 田中恭子 涂照彦 安井三吉 安江伸夫 山岸猛 山下清海 山田修 游仲勲 容應莢 吉原和男

本学会の設立の経緯については上に示されたとおりであるが、本学会の設立に最も重要な役割を果たしたのは、日本における華僑・華人研究の中心的な存在であった游仲勲亜細亜大学(現東邦学園大学)教授と、游をリーダーに共同研究を行ってきた研究者たちである。2003年に古希を迎える游仲勲の古希記念論文集(游仲勲先生古希記念論文集編集委員会編『日本における華僑華人研究 游仲勲先生古希記念論文集』風響社 2003年)の刊行準備の過程で、本学会の設立の機運が高まっていったのである。

## II 設立総会の開催

### 1. 設立総会での決定事項

前述したように日本華僑華人学会の設立総会が2003年3月29日、東京・赤坂の日本財団ビルの会議室において開催された。全国各地から華僑・華人研究者が集まり、当日会場において学

会へ入会する方も多く、会員数約100人で新しい学会が発足した。

設立総会においては、まず、発起人を代表して、游仲勲教授が学会設立に至るまでの経緯について説明した後、議長に樋泉克夫会員を選出して、議題について審議が行われ、主に以下のことが決定された。

#### (1) 学会の名称

それまで、仮称として「日本・華僑華人研究学会」という名称を用いていたが、正式名称として「日本華僑華人学会」とすることになった。

#### (2) 組織（所属は学会設立時）

会長：游仲勲（亜細亜大学）

常務理事：窪田新一（笹川平和財団日中友好基金室）

監事：小木裕文（立命館大学）、山田修（ミード株式会社）

常任理事：黒木国泰（宮崎女子短期大学）、陳来幸（神戸商科大学）、伊藤泉美（横浜開港資料館）、山下清海（東洋大学）、中川學（拓殖大学）、樋泉克夫（愛知県立大学）、窪田新一（笹川平和財団日中友好基金室）、游仲勲（亜細亜大学）、吉原和男（慶應義塾大学）、曾士才（法政大学）、山岸猛（秀明大学）、段躍中（日本僑報社）

理事：黒木国泰（宮崎女子短期大学）、王効平（北九州市立大学）、安井三吉（神戸大学）、許淑真（摂南大学）、陳来幸（神戸商科大学）、中村哲夫（神戸学院大学）、宮原暁（大阪外国語大学）、森川眞規雄（同志社大学）、西村成雄（大阪外国語大学）、田中恭子（南山大学）、原不二夫（南山大学）、伊藤泉美（横浜開港資料館）、陳天璽（東京大学学振特別研究員）、樋泉克夫（愛知県立大学）、窪田新一（笹川平和財

団日中友好基金室）、凜照彦（國學院大学）、濱下武志（京都大学）、岩崎育夫（拓殖大学）、綾部恒雄（城西国際大学）、山下清海（東洋大学）、朱炎（富士通総研）、中川學（拓殖大学）、吉原和男（慶應義塾大学）、三平則夫（日本福祉大学）、游仲勲（亜細亜大学）、嘉数啓（日本大学）、山岸猛（秀明大学）、廖赤陽（武蔵野美術大学）、曾士才（法政大学）、松本武彦（山梨学院大学）、安江伸夫（テレビ朝日）、段躍中（日本僑報社）、王維（香川大学）

#### 2. 学会規約の制定

設立総会では本学会の規約について審議され、以下のような学会規約が承認された。

##### 第1条（名称）

本学会は日本華僑華人学会と称する。

##### 第2条（目的）

本学会は、会員相互の研究交流を深め、日本の華僑華人学をいっそう発展させるとともに、その成果を広く社会全体に伝えることを目的とする。

##### 第3条（事業）

- 1 研究発表会、シンポジウム、講演会等の開催
- 2 機関誌、研究書の発行
- 3 その他

##### 第4条（会員）

会員は一般会員、学生（院生を含む）会員、賛助会員の3種類とする。

##### 第5条（年会費）

一般会員4000円、学生会員2000円、賛助会員一口1万円とする。

##### 第6条（組織）

- 1 理事 30名前後（学会全体の運営

を行う)

- 2 常任理事 10名前後 (うち1名を常務理事とし、常務理事は日常業務の処理にあたる)

- 3 会長 1名 (会を代表する)

- 4 監事 2名 (日常業務の監査)

- 5 事務局 常務理事の下におく

#### 第7条 (役員)

- 1 理事と監事は会員中から選出し、総会において承認を受ける。
- 2 常任理事と会長は理事の互選による。
- 3 役員の任期は2年とする。

#### 第8条 (総会)

- 1 総会は、その年度の全国研究大会で行う。
- 2 総会における決定は、出席者の2分の1を超える (白票を除く) 賛成が必要である。

#### 第9条 (規約の改廃)

規約の改廃は、総会がこれを行う。

#### 附則 (発効)

規約は2003年3月29日より発効するものとする。

### 3. シンポジウムの開催

設立総会の終了後、同じ会場で講演とディスカッションが行われた。まず、濱下武志京都大学教授による「21世紀の華僑・華人研究—研究動向と新たな課題—」と題する記念講演が行われた。この講演内容については学会誌『華僑華人研究』の創刊号 (2004年9月頃、刊行予定) に掲載されることになっている。

この記念講演を受けて、以下のように異なる分野の3人の研究者から華僑・華人研究の現状や課題などについて問題提起が行われ、フロアの出席者を交えて討論が行われた。

「横浜華僑・華人研究の視点から」 (横浜開港資料館 伊藤泉美)

「地理学の視点から」 (東洋大学 山下清海)

「経済学の視点から」 (國學院大学 凜照彦)

### Ⅲ 第1回大会の開催

2003年11月22日、日本華僑華人学会の設立後初めての第1回大会が日本財団ビルを会場に開催された。参加者は関係者の予想を上回る77名に達し、成功裡に終了した。

大会では以下に示す12の研究報告が行われ、各20分という限られた発表時間であったが活発な質疑応答が行われた。

#### 第1セッション (座長: 曾士才)

1. 阿部康久 (名古屋大学環境学研究科): 近代日本の植民地における中国人労働者政策の地域的差異と背景
2. 廖赤陽 (武蔵野美術大学造形学部)・王維 (香川大学経済学部): ローカル・イニシアティブにおける伝統の創造—長崎ランタン・フェスティバル (春節祭) とニュー・エスニシティ
3. 江衛 (東洋大学大学院): 埼玉県川口市芝園団地における新華僑の集住化

#### 第2セッション (座長: 黒木國泰)

4. 廖赤陽 (武蔵野美術大学造形学部)・王維 (香川大学経済学部): “日華文学” と “在日中国人社会”—漂流する孤島
5. 中村哲夫 (神戸学院大学人文学部): 泰益号文書研究の回顧と展望
6. 段躍中 (日本僑報社): 中文メディアサミットから見た華僑華人—第2回世界中文メディアフォーラムに参加して

### 第3セッション（座長：山下清海）

7. 林史樹（神田外語大学外国語学部）：華僑社会のなかのマイノリティー韓国華僑にみる「華僑」の混雑性
8. 王恩美（一橋大学大学院）：戦後韓国における華僑学校教育
9. 野澤知弘（横浜桜陽高校）：カンボジアの華人社会—華人社団の現況考察と今後の展望

### 第4セッション（座長：山岸猛）

10. 古田茂美（香港貿易発展局）：華人企業の中国事業とチャイニーズ・スタンダード—香港華人企業への聞き取り調査，インタビュー調査を中心として
11. 安東みさを（ノートルダム清心女子大学）：経済ゲイトウェイにみる華人ネットワークの特質
12. 凌星光（日中関係研究所）：新華僑華人政策推進の背景と内容

研究報告に引き続き開かれた総会（議長に原不二夫会員を選出）では、決算報告、監査報告、予算案が承認された。

また、今後、充実した学会誌を継続して発行していくために、2004年度以降の年会費を、一般会員4000円から8000円に、学生会員2000円から3000円に変更することが決まった。

また、第2回大会は曾士才会員を幹事として2004年11月27日に法政大学市ヶ谷キャンパスで実施されることになった。

## IV 学会の活動内容

### 1. 例会の開催

本学会は年1回の大会のほかに例会を開催し

ている。

第1回例会は2003年8月29日、日本財団ビルで「留日華僑聯合総会から日本華僑華人聯合総会へ—陳焜旺名誉会長と殷秋雄会長を囲んで—」というテーマで、28名の出席者で行われた。まず、陳焜旺名誉会長から、戦後在日華僑の政治的運動を中心に実体験にもとづく話をいただいた。引き続き、殷秋雄新会長から、留日華僑聯合総会から日本華僑華人聯合総会への改称の背景、役割の変化などについて説明があった。その後、活発な質疑応答があった。

第1回の例会が非常に好評であったので、引き続き積極的に例会を開催していくことになった。第2回例会は2004年2月14日、日本財団ビルで「神戸・横浜における華僑・華人の動向」というテーマで、神戸華僑歴史博物館・王柏林館長および横浜華僑総会・曾徳深会長に講演していただいた（出席者35名）。

王柏林氏からは、ご自分で執筆された『王敬祥関係文書』について（『孫文研究』28 2000年7月）に基づいて神戸の華僑社会の歴史を中心に話をいただいた。

つづいて、曾徳深氏からは、ご自分で作成された「報告メモ」およびその他多くの配布資料に基づいて華文教育問題を中心に講演していただいた。

その後、フリーディスカッションとなり、神戸と横浜の華僑・華人社会の差異（新華僑が多い横浜、少ない神戸など）、中華街の今後のあり方、地下鉄みなとみらい線開通で賑わう横浜中華街の近況、など話題は多岐に及び、予定の時間を大幅に延長して終了した。



## 2. ホームページおよびメールマガジンの開設

本学会では2003年7月から日本華僑華人学会のホームページを開設した。今のところ、筆者（山下清海）による手作りであり改善の余地が多分にあるが、幸い学会のPRには貢献しているようである。2003年11月に開催された第1回大会では、ホームページ上で大会の開催案内を見て出席したという非会員が少なくなかった。

本ホームページでは、大会・例会の案内、会員著作、会員動向、学会規約、投稿規程、入会案内、リンク集などのコーナーを設けているので、読者の方々には、ぜひご覧いただきたい。日本語だけでなく、中国語（簡体字）版および英語版（作成中）も設けている。日本華僑華人学会のホームページのURLは以下の通りである。

<http://www13.ocn.ne.jp/~yamakiyo/>

また、段躍中会員の尽力で、日本華僑華人学会メールマガジン「日本華僑華人学会通信」も月1回発行している。本学会関係の最新の情報を電子メールで伝えている。本メルマガの購読（無料）の申込は下記のサイトを参照していただきたい。

<http://www.mag2.com/m/0000119884.htm>

## お わ り に

華僑・華人研究の全国的学会である日本華僑華人学会の設立は2003年であり、これまでのこ

の分野における研究の蓄積から考えればやや遅かったようにも思われる。学会設立後、間もない2003年8月にはアジア経済研究の板垣興一賛助会員（一橋大学名誉教授）が、そして2004年2月には客家研究の中川學会員（本学会常任理事）が亡くなられ、貴重な研究体験を聞く機会を失ってしまったことが悔やまれる。

設立したばかりの日本華僑華人学会の今後の課題は山積している。本学会の機関誌『華僑華人研究』（*Journal of Chinese Overseas Studies*）を世界的にも通用する学会誌にしなければならない。創刊号は2004年9月頃の発行予定である。また、海外の研究者、学会などとのネットワークづくりにも努めなければならない。

本学会は、研究者だけの学会にとどまらず、華僑・華人に関心を持つジャーナリスト、企業家、ビジネスマンなど一般の方々にも門戸を開放している。多くの方々の参加を呼びかける次第である。

（筆者注）可児弘明・斯波義信・游仲勲編『華僑・華人事典』弘文堂

（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授）

〔付記〕

学会事務局は、以下の通り。

郵便番号107-8523

東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階 笹川平和財団内

日本華僑華人学会事務局

電話 03-6229-5452 FAX：03-6229-5473

e-mail: kogusuri@spf.or.jp